

もとす教道研会報 第10号 平成24年7月7日

発行所:岐阜もとすモラロジー事務所
Tel/Fax 058-324-7756

総会・講演会を開きました!

平成24年6月23日(土)北方町立北方西小学校ひまわり教室において、もとす教育者道徳研究会(教道研)の総会並びに講演会を開きました。平成24年度の実質的なスタートです。

当日は、ご多用の中、13名の方がご参加くださいました。今回もご多用の中を参加していただき、有難うございました。

森山会長の進行で、神谷副会長の開会あいさつ、役員案承認の後、森山会長のあいさつと進みました。「平成23年度は、第48回岐阜県教育者研究大会岐阜もとす会場の運営をしたこと、3月の実践研究会で3人の方から郷土資料の開発・実践を発表してもらえたこと、これは**小さくてもキラリと光る活動になった**」と、感謝の意を述べました。その後、昨年度の活動・決算監査報告、新年度分の活動・予算案を吉田書記、北村会計より提案、神原監査の報告とともに、各議案を承認していただきました。

今年度は、実践研究会に提案された林顧問の自作郷土資料を授業で活用して欲しいとの願いをもっております。そこで、総会資料に「北方の誇り 棚橋源太郎」を付け、岐阜新聞に載った「棚橋賞」の記事を配布することにしました。また、根尾の所美千敏氏からは、2万円の支援金を昨年引き続き頂戴し有難く思った次第であります。



挨拶する森山会長

神谷副会長・吉田書記・北村会計

平成24年度 もとす教育者道徳研究会役員・理事

名誉顧問	大倉 昭	
顧問	林 明夫	北方町教育委員長・本巣市教育センター
会長	森山 政紀	北方町立図書館長
副会長	村山 知子	本巣市立根尾小学校教頭
	松野 康司	北方町立北方小学校教頭
	神谷 肇	岐阜もとすモラロジー事務所
書記	吉田 光宏	北方町立北方小学校教諭
会計	北村あずさ	北方町立北方西小学校教諭
監査	大野 美紀	本巣市立本巣中学校教諭
	神原 重典	岐阜もとすモラロジー事務所
理事	森 健治	岐阜もとすモラロジー事務所

※今年度、理事枠の本巣市・北方町道徳部会顧問は空席

平成24年度 今後の主な活動計画

8月 7日(火) 第49回岐阜県教育者研究大会各務原会場

13:00 各務原市立中央図書館

◎大野琴美教諭が実践発表されます。是非応援に!

※8月 2日(木) 13:30 可児市福祉センター

※8月17日(金) 13:15 瑞浪市総合文化センター

8月17日(金) 県道徳教育研究部会夏季ゼミナール

10:00 海津市(南濃町)公民館

12月22日(土) 役員・理事会 17:00 北方西小

2月23日(土) 実践研究会 ※瑞穂市と共催で

14:00 北方西小

3月15日(金) 役員・理事会 18:30 北方西小

講演：子どもたちから学ばせてもらっていること

講演者：松尾綾子氏 本巢市主任児童員、岐阜県重症心身障がい児
・者を守る会副会長、在宅部会長

松尾さんは、ご自身が重度の障がいをもつ長男を育てた経験をお持ちです。だから、子育てに悩み、苦勞している人に、心から寄り添うことができる人です。持ち前の明るさで、共に困難を乗り越える実践家です。



お母さんががんばったネ

子育てがうまくいかないと悩む母親は、特別な人ではありません。親子、夫婦、嫁姑、近所付き合いと多くの問題を抱えているのです。ネグレクト（児童虐待）の母親がいました。家はゴミ屋敷と呼ばれ、親も腫れ物に触るような感じです。いろいろ話を聴いていくと、育児放棄が「大きくなってしまおうと自分が抱いて育てられなくなる」との思い込みが強いためと分かりました。その小学生の小さな子の思いが「きれいな家にしたい」ということが分かり、小学校や市など関係機関にも働きかけながら、大量のゴミの始末をしたのでした。その子は、やがて登校できるようになり、仲間とも関われるようになり、無事卒業することができました。母親が涙を流しながら、「松尾さんのお陰です。有難うございました。」と言いました。こんな日を迎えることができ、私は、本当に嬉しかったのですが、「どこまでしたらよいのか…」という悩みは常につきまとっていました。ただ、本人が、家族が、喜んでいられることを見つけて歩んでき

た日々でした。その子は、中学生として今元気にやっているようです。これからも見守っていこうと思います。私は母親に、頭のよい人、5人も子どもを産んだ人として、「すごいよ」と話してきました。卒業式の日も「お母さんがよくがんばったから」と、素直に伝えました。

地域で支えよう

私の住んでいる家の近くに、岐阜本巣特別支援学校が開校しました。自分の力では何もできないのですが、地元の小中学校と一緒に地域の力で支えようと活動をしています。花を植えたり、あいさつに立ったり、障がいをもつ子の親に寄り添ったり…。自分の仕事もあるので、どこまでできるか分かりませんが、今後も続けていこうと思います。

写真下 熱心に聴き入る皆さん 写真右 講演中の松尾さん



翠 誠治氏より

次の日感想が寄せられました

(略) 教育者・教師は、知識・学問・技術を教えることといわれてきました。確かにそういう面は大切なことですが、現代の教育学・教授学では、知識・学問・技術は勿論人間的なあり方を含めて、学び続ける・追求し続ける人こそ教育者であり、教師であるといわれています。しかし、先人から、文化遺産から、自然から、社会から学ぶことはあっても、子どもから学ぶというのは希有なことです。ですから期待して参加させていただきました。期待に違わず、すばらしい内容でした。母親の悲しみ・辛さに寄り添いながら、手当て・方向を工夫し、発見し、ご自分を豊かにし、子どもたちや母親たちを元気づけ励まし続けておられることが生き生きと語られました。お話を伺いながら「福助」のことを思い浮かべていました。(略)